

交通安全を 意識して、 事故を未然に防ぐ

安協の会長に聞く

小諸交通安全協会 会長
伊藤 正直さん

平成5年から小諸交通安全協会南町区支部役員を6年務め、その後交通指導員を18年歴任（うち、8年会長）後、現在の役職に就く。セーフコミュニティの交通対策委員会では委員長として活躍。



現

在、小諸市交通安全協会（安協）の会長を務める伊藤さんは、これまで数多くの交通安全運動を通し、「事故のないまち」をめざしている。しかし、理想のまちの実現には、険しい現実が突き付けられているという。

「安協では、現在子どもと高齢者の事故防止や二輪車の事故防止に力を入れています。昨年、小諸市では交通死亡事故ゼロ1,000日を達成し、県内19市では初めての記録となりました。しかし、その後死亡事故は起き、記録はストップ。原因はスピードの出し過ぎによりカーブを曲がり切れず、対向車両と激突するというものでした。交通事故は相手があることだから、自分だけ気を付けていても事故はなくなりません。ただ、自分が気を付ける努力をしないと交通安全は始まりません。車は時として凶器になります。運転する人もそうだけど、歩く人もマナーやルールを守る必要があります。」

伊藤さんは、安全なまちの構築には、一人ひとりの交通安全への意識が大切だと思い、何度も交通安全運動を通じて訴えてきた。

市、安協、警察などが主体となり実施する交通安全運動は、小諸の場合、特に参加する人が多いと話す。

「頭では思っている行動に移すことは大変なことだと思います。例えば災害が起きて、ボランティアで自主的に行動できるかと言えばなかなかできないで

す。交通安全も同じです。人波作戦の時には200人近い人が集まります。交通事故をなくすためには、目に見える活動が大切だと考えている中で、これだけの人数が集まるのは効果があります。小さいことしかできないかもしれないけど、みんながまとまって活動すると、結構大きいものになるんです。」

交通事故を未然に防ぐには、「一番は、一人ひとりが事故を起こさないように意識することです。意識して運転するだけでも交通安全になります。小諸に住む皆さんの協力をお願いします。」伊藤さんの呼びかけに、素直に耳を傾けたい。



①小諸市で行われている交通安全運動の一つ「人波作戦」。交通安全に取り組む各団体が集まり、通過車両に安全運転を促している。②伊藤さんが交通安全運動を通じて、つながりができた「NPO法人交通教育とらふいっく Sisters」。交通安全をミュージカルで伝える切り口は多世代に効果があり、高齢者教室や学校での交通安全教室に出演している。